

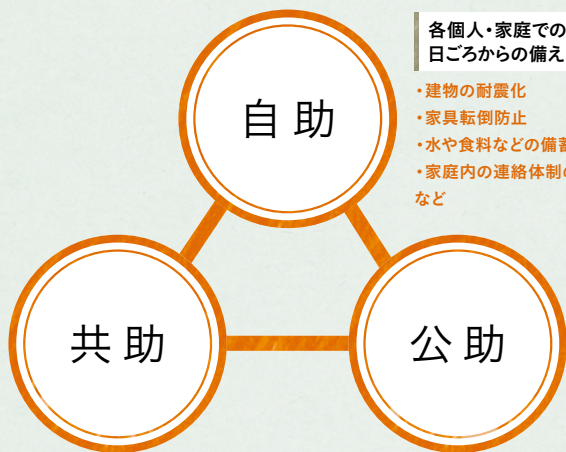


特集① 災害に強いまちを目指して

地域ぐるみの防災対策

武蔵野市では防火・防災意識の高揚と体制づくりの強化を図るとともに、地域、消防署・警察署などの行政機関、医療機関、民間企業などと連携して、災害に強いまちづくりを推進しています。

＜ 地域防災推進のための3原則 ＞



自助

各個人・家庭での
日ごろからの備え

- ・建物の耐震化
- ・家具転倒防止
- ・水や食料などの備蓄
- ・家庭内の連絡体制の確認など

共助

隣近所の知人・友人・
自主防災組織などによる絆づくり

- ・地域防災訓練への参加
- ・自主防災組織の設立
- ・災害時要援護者の安否確認
- ・避難所の自主運営 など

公助

公的機関における
防災態勢整備

- ・地域防災計画の策定
- ・避難所・備蓄品などの整備、
ライフラインの確保
- ・自助・共助への支援
- ・市民啓発講演・防災訓練 など

個人、地域、行政などの連携で
災害に強いまちをつくる

東日本大震災から4年が経過しました。今後30年の間に首都直下地震が起こる確率は70%ともいわれています。地震を予知したり防ぐことはできませんが、事前の備えで被害を最小限に抑えることができます。

そのためには「自分の生命は自ら守る」という自助と、地

域の助け合いによる共助、行政による公助などが連携して防災に取り組むことが欠かせません。

市の「武蔵野市地域防災計画」では、市民の生命・身体・財産を災害から守るために、「災害に強い武蔵野市」を実現することを目的とし、市内で地震や風水害などの災害が発生した場合の応急や、事前の備えなどを適切に実施することを定めています。



もしも地震が起こったら

地震災害とは？

地震による被害には、建物の崩壊、火災の発生、土砂崩壊、液状化現象(地震によって地盤が液体のような現象)などがあります。今後発生することが予想されている首都直下地震などでは、大都市特有の被害も多く発生するものと考えられます。



首都直下地震被害想定 (M7.3)

首都直下地震が発生すると、人的・建物被害をはじめ、電気・ガス・上下水道などのライフライン、鉄道や道路などの交通網に東日本大震災以上の大きな被害があると想定されています。

首都直下地震被害想定 (M7.3)		武蔵野市における被害想定数 (市内最大震度6強) (冬の午後6時、風速8m/秒)	東京都における被害予想数 (冬の午後6時、風速8m/秒)	
人的被害	死者	41人(うち火災による死者23人)	6413人(うち火災による死者3517人)	
	負傷者	796人(うち重傷者数83人)	16万860人(うち重傷者数2万4501人)	
物的被害	建物被害	1455棟(うち火災焼失1041棟)	30万4300棟(うち火災焼失20万1249棟)	
	ライフライン	電力施設(停電率)	6.7%	17.6%
		通信施設(固定電話:不通率)	2.9%	7.6%
		ガス施設(供給停止率)	93.3%	74.2%
		上水道施設(断水率)	56.2%	34.5%
		下水道(管きよ被害率)	16.3%	23.0%
その他	帰宅困難者	5万3755人	516万6126人	
	避難者の発生(ピーク:1日後)	3万1496人	399万231人	
	エレベーター閉じ込め台数	60台	7473台	
	自力脱出困難者	216人	5万6666人	

「武蔵野市地域防災計画」より

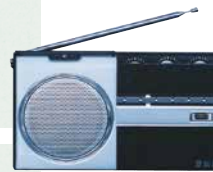
地震発生時はどう行動したらいい？

揺れたら、落ち着いて行動を！

その場にいる家族の安否を確認し、揺れがおさまったら火元を確認。室内でも靴を履き足元を保護しましょう。

1~3分

3~5分



隣近所、特に高齢者や乳幼児がいる家には積極的に声を掛け安全確認をします。ラジオなどで正しい情報を入手しましょう。

避難に備え準備をします。ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とします。避難時に車は使わないようにしましょう。

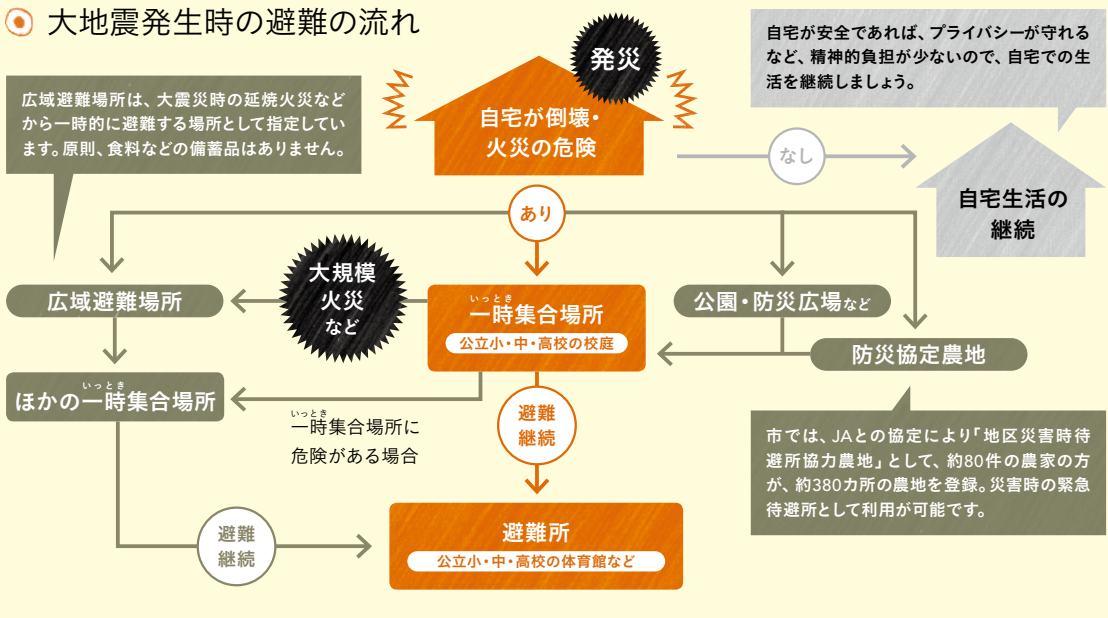


5~10分

10分~数時間

隣近所で声を掛けあって協力しあい、消火や救出活動を行いましょう。

◎ 大地震発生時の避難の流れ



一時集合場所・避難所について

◎ 一時集合場所・避難所とは？

- A 地震が発生した後に、一時的に余震などから身を守るためのオープンスペースが一時集合場所です。これに対し、避難所は、自宅で生活できない方が避難生活を送るための場所です。

◎ 武蔵野市内にある一時集合場所・避難所は？

- A 市立小学校12カ所、市立中学校6カ所、都立高校2カ所（武蔵、武蔵野北）の合計20カ所です。

◎ 避難所1カ所に避難することができる想定人数について

- A ピーク時の単純計算で約1600人です。市内全域で避難者が約3万2000人発生する想定です。しかし、「余震が怖い」などの理由で、一時集合場所に避難する人の数は、この何倍にもなることが考えられます。

◎ 避難所のスペースは足りるのか？

- A 学校の全ての教室などを利用すれば足りる想定になっています。しかし、廊下などにも人があふれかえるような状況になることが想定されます。このため、市民の皆さんには「自宅が無事なら自宅での生活継続」をお願いしています。

◎ 避難所はすぐに開設されるのか？

- A すぐには開設されません。少なくとも災害発生後3時間はかかるが見込まれます。これは、2次災害を避けるために学校施設の安全点検を行うためと、避難所の受け入れ態勢を整えるためです。

阪神淡路大震災の時には、受け入れ態勢の準備不足により、避難場所として想定していなかった校長室や応接室などにも避難者が入ってしまった事例がありました。

◎ 避難所に駆けつける市の職員の数

- A 初動要員として7名の職員が指名されています。ただし、自分の安全を確保した上での参集となり、また、発災時に遠方にいる場合も考えられるので、全員がすぐに駆けつけられるわけではありません。



(出典：一般財団法人消防科学総合センター)

共助



地域ぐるみで 防災対策を

災害時には、市が関係機関と連携して防災活動に取り組みます。しかし、災害の被害を最小限にとどめるには地域の協力体制が不可欠です。日ごろからご近所と「顔の見える関係」を築いておきましょう。

自主防災組織・避難所運営組織の役割

自主防災組織

災害時に、一定の区域や住んでいるマンションの防災活動の中核となって初期消火や救出・救護などを行う組織。平成27年9月現在、市内に49団体。

避難所運営組織

自主防災組織のうち、市が設置する避難所の運営が円滑になるよう運営に携わっていく組織。平成27年9月現在、市内に10団体。

自主防災組織について

自主防災組織は、大規模な災害が発生した際、地域住民が的確に行動し被害を最小限にするため、平常時には地域内の安全点検や住民への防災意識の普及・啓発、防災訓練の実施など災害に対する備えを行います。



（ 会長に聞きました ）

吉祥寺南町4・5丁目は古い建物も多いため、震災への備えの事前準備を呼びかけています。今後は、防災訓練や活動を活発化していきたいです。



吉祥寺南町4・5丁目
自主防災会

小美濃 宏之さん

市の役割

市では、災害に強いまちづくりを推進するため、平成10年9月「自主防災組織に関する要綱」を定め、自主防災組織の支援・育成や活動に使用する資器材、用品の提供などを行っています。

◎ 地域社協・福祉の会（正式名称：地域福祉活動推進協議会）

概要

住民同士の助け合い活動をする住民によるボランティア組織。いざというとき、困ったときにお互い助け合える住民同士の助け合いネットワークづくりを目指す活動。

活動内容

市内13地区の区域で活動。地域や丁目ごとの食事会や交流会、サロン活動などを行うほか、安心助け合いネットワークを構築している。また、災害時要援護者対策事業では支援者探しや安否確認訓練などを行っている。

市の役割

市は、市民社会福祉協議会を通じ、災害時要援護者対策事業の活動費などの補助のほか、情報提供や、意見交換の場の設定などの支援を行っている。

避難所運営組織について

自主防災組織・町会・自治会・PTAなど市民団体が協力し、避難所運営マニュアルの作成や避難訓練を実施し、災害発生時には避難者の避難支援や避難所環境の整備や運営を行います。



市では、学校での防災授業や地域の集まりでの防災講話などを実施しています。「自助・共助の取り組み」「家庭で行う食料備蓄」「マンションの防災対策」「マンションの防災対策」など、さまざまなテーマで行いますので、防災課までご相談ください。☎60-1821

7月25日に境南地域 防災訓練を実施

避難所運営組織をいち早く立ち上げた境南地区。防災訓練では、東京消防庁と協力して地震体験車、煙体験ハウスなどを設置。武蔵野赤十字病院からAEDの使い方をお教わりなど体験型の訓練が行われました。



（ 会長に聞きました ）



境南地域防災懇談会
大矢照男さん

訓練がしっかりできていれば震災時に率先して動けます。自分たちのまち・人を自分たちの手で守りましょう。

● 災害時地域支え合い ステーションによる共助の推進

共助の推進による地域防災力向上のため、地域の防災リーダーなどの人材育成を推進するほか、コミュニティセンターを「災害時地域支え合いステーション」として位置付けています。

▼ 現在の避難所運営組織一覧

平成27年9月現在

いっとうき 一時集合場所・避難所	避難所運営組織
第一小学校	一小地域防災ネットワーク
第二小学校	武蔵境自主防災会
第三小学校	南町防災ネットワーク
第四小学校	四小地域防災会
第五小学校	※発足に向け準備中
大野田小学校	大野田地域防災の会
境南小学校	境南地域防災懇談会
本宿小学校	東部防災会
千川小学校	千川地域防災会
井之頭小学校	※発足に向け準備中
関前南小学校	関前防災会
桜野小学校	※発足に向け準備中
第一中学校	一中地域防災会
第二中学校	-----
第三中学校	東部防災会
第四中学校	大野田地域防災の会
第五中学校	関前防災会
第六中学校	武蔵境自主防災会
都立武蔵高校	-----
都立武蔵野北高校	-----

市の役割

市では、地域団体や市民防災協会などと連携し、すべての避難所に避難所運営組織が設立されるよう地域への支援を行っています。



武蔵野市の 防災対策

武蔵野市では、平成25年4月に地域防災計画を大幅に改定し、地震をはじめとするあらゆる災害の予防、応急・復旧および復興の対策を進めています。

地域防災計画を策定

市は、東日本大震災の教訓や新たな被害想定などを受け、近い将来、地震など自然災害が起こった場合の市および関係機関の対応や被害を最小限に抑えるための事前対策などを定めた「武蔵野市地域防災計画(平成25年修正)」を策定しました。

現在、平成26年に修正した災害時医療救護体制および風水害対策、26年度に検討委員会で検討された避難行動支援体制などを反映した「地域防災計画(平成27年修正)」を策定中です。

計画の基本目標と基本方針

市民の命と財産を守ることを第一に考え、「自助・共助・公助により市の総力を結集した地域防災力の高度化を図り、被害の最小化を目指す」ことを計画の基本目標とします。

この目標を実現するため、次の基本方針に基づいて計画を推進します。

基本方針 1

あらゆる事態に備えた事前対策の充実と応急対応力の強化

基本方針 2

地域防災力向上のための多様な主体の連携強化

防災態勢

大きな災害が発生すると、ただちに非常配備態勢を発令し、市長を本部長とする災害対策本部が設置されます。災害対策本部に集まるさまざまな情報に基づいて対策を検討し、必要な指令が発せられます。

初動態勢

市内で震度5弱以上の地震が発生した場合や大きな災害が発生した場合などに、市内・近隣に在住の職員からなる初動要員が、自発的に20カ所の一時集合場所・避難所などに参集し、情報収集活動や避難所開設などの応急対策活動を開始します。

災害用備品の整備

災害時の避難人口を約3万2000人と想定し、クラッカー・アルファ米・缶詰などの食料、毛布・マット・紙おむつなどの生活必需品、救助工具・仮設トイレなどの資器材を備蓄しています。



災害時の情報提供

災害時にはさまざまな情報が錯そうします。市では、防災行政無線屋外スピーカー、むさしの防災・安全メール、むさしのFM、ホームページ、ツイッター、フェイスブックなど多様なメディアで情報を発信しています。

4月から、防災行政無線の放送内容が電話で確認できるサービスも開始しました。(☎60-1920)



◎ 災害に備えて防災マニュアルを確認しておきましょう



市では、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、市民向けに「防災ハンドブック」を作成しています。大震災で課題となった項目(情報連絡・収集手段、帰宅困難者対応、ガスの復旧方法など)を中心に掲載し、市の防災対策や、防災に関する補助金・助成制度など網羅的に紹介しています。



大地震発生時の対応や、災害時の関連施設などについて記載しています。そのほか、災害用伝言ダイヤルなどについても掲載しています。あらかじめ、家族で避難先や安否確認方法を相談しておきましょう。



災害時に 困らないために

災害時に必要になる水・食料・生活必需品については、一人ひとりが災害時のための備えとして、最低3日以上準備するようにしましょう。また、自分専用のモノなどの日用品も準備しておきましょう。

自宅での生活を継続させるための備え

1 食料・飲料の備蓄

「常温保存可能」「普段使い」のものを少し多めに備蓄します。

- ・最低3日分の食料・飲料を備蓄 ・水は1人1日3リットル
- ・日用品の備蓄(薬や眼鏡など個人に合わせたもの)



2 家具の転倒防止

- ・家具転倒防止器具を取り付け(高齢者・障害者の方に助成あり)
- ・つり下げ式の照明器具は鎖と金具を使って補強

3 ペットの防災対策

地震からペットを守るため、日ごろの備えは万全にします。

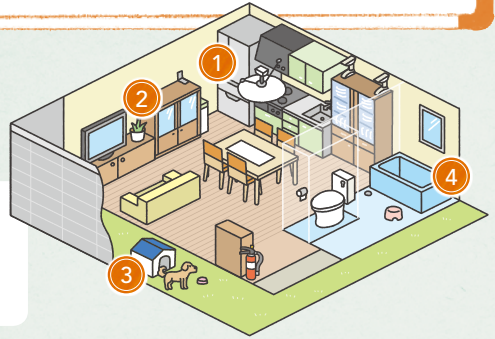
- ・ペット用の水や餌の備蓄
- ・トイレ用品の備蓄
- ・鑑札・迷子札などの身分の表示



4 火が大きくなる前に初期消火を

火は天井に届く前が消火の勝負です。いつでもすぐに消火できるように備えましょう。

- ・消火器の設置
- ・風呂の水は流さずためておく
- ・住宅用火災警報器の設置



家族との安否確認をスムーズにするために

家族防災会議

月に1回程度、家族そろって防災会議を開き、身を守る方法を話し合っておきましょう。

- 1 家族一人ひとりの役割分担
- 2 家屋の危険箇所のチェック
- 3 家具の安全な配置と転倒防止
- 4 災害時の連絡方法や避難所の確認
- 5 備蓄品や非常時持出品のチェックと入れ替え
- 6 災害が起きたときのシミュレーション

災害伝言ダイヤル171

大きな災害の発生により、被災地に対する電話がつながりにくい状況になった場合に利用できます。ガイダンスに従って落ちて録音・再生してください。

携帯電話の「災害用伝言板」

大きな災害が発生した場合、携帯電話各社のポータルサイト上に「災害用伝言板」が開設されます。

web171

インターネットで災害用伝言板(web171)にアクセスし、電話番号をキーとして安否情報(文字)を登録できます。

安全に避難するために

● 事前に準備を

普段から避難場所までの安全な経路などを確認しておきましょう。

● 持ち物は最小限に

荷物は背負い、両手が使えるようにしましょう。

● 車は使わないのが原則

ほかの避難者や緊急車両の妨げにもなり危険です。

● 隣近所で声を掛け合って

避難は集団行動が理想です。近所の人と話し合っておきましょう。

● 情報の収集を

市が発信する、ホームページ、ブログなどの情報の収集につとめましょう

お知らせ

10月25日に総合防災訓練を実施

今年度も、市内に大地震が起こったことを想定し総合防災訓練を実施します。市内小中学校18校と都立高校2校で避難所開設訓練を行います。市報10月1日号などを参照のうえ、お近くの会場の訓練にぜひご参加ください。

日時 10月25日(日) 午前9時~正午

● 市民防災協会

武蔵野市民防災協会(市役所西棟1階)では、防災用品の販売を行っています。また、市民による防災推進員を市内に配置し、防災知識や対策の普及、啓発などを行っています。

☎ 武蔵野市民防災協会 ☎0422-60-1926

